

2020年5月24日

愛媛大学 物性制御工学研究室(小林研) イエロー・ステージ研究活動ガイドライン(5/24 案)

本ガイドラインは、「愛媛大学新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するBCP.pdf」(添付ファイル参照)ならびに工学部研究活動ガイドラインをもとにして作成した、小林研究室のイエロー・ステージ(警戒レベル2)における研究活動ガイドラインです。このイエロー・ステージとは、「愛媛大学新型コロナウイルス感染症に対するBCP.pdf」に記載の、COVID-19の感染状況によって愛媛大学の研究・教育活動等に制限をかける際の区分(警戒レベル)を色で示したものの1つです。現在、どの警戒レベルが設定されているかは、愛媛大学のHPの下記のサイトから確認できます。

https://www.ehime-u.ac.jp/data_news/data_news-110929/

5/24現在の愛媛大学の新型コロナウイルス感染(COVID-19)に対する警戒レベルは、「オレンジ(警戒レベル3)」です。

(1) 卒業研究(B4)・修了研究(M1, M2) 活動記録表の提出 (※すべてのステージ)

①エクセルファイル「小林研 活動記録表(氏名)」内のタブ(週の日付) 研究予定・実施表を毎週金曜日に作成する。

※就職活動中の人は、(週の日付) 研究予定・実施表に就活の状況を反映させて 研究予定・実施表に記入して提出してください。

②毎週金曜日の17:00-23:00に小林研究室のDropbox(小林研究室 学生活動記録)へ提出することが、今後、卒業論文研究、修士論文研究に携わり卒業・修了するための必要条件としますので全員提出すること。これは、指導教員が責任をもって卒論研究・修論研究を指導するために必要な資料となります。DropboxのURLは下記の通り。

Dropbox(小林研究室 学生活動記録)

<https://www.dropbox.com/request/Yc3ZRKb57qldxCp3oz41>

③エクセルファイル「小林研 活動記録表(氏名)」内のタブ(研究継続)申請書・誓約書は次の週に研究室へ入室する場合には記入して②の提出時に合わせて前もって提出してください。その際、利用する部屋や時間帯を記入すること。

土曜日もしくは日曜日に小林が書類をチェックして、次の週の大学での研究室活動の許可・不許可を出す予定です。不許可の場合は研究室に来ることはできません。

(2) イエロー・ステージにおける新しい研究室活動様式

まだ、いつから学生の皆さんが研究活動を大学に来て実施できるようになるかは未定です。しかし、最近の COVID-19 の感染拡大が一次的に落ち着いている状況から、6 月ごろから大学の警戒レベルがイエロー・ステージになり、学生さんの研究活動が許可される可能性が出てきました。しかし、感染対策を引き続き取りながらの活動となるため、様々な制限付での活動になる予定です。現在、教員らでその制限について検討が続けられています。前例がないことであり、各研究室で実験の内容や部屋の形態が異なるので、統一した制限(条件・ルール)を定めることはできないため、細かいルールは各研究室で定める必要がある。小林研究室では以下のように定める。

「大学に来て小林研究室で活動するための条件・ルール(イエロー・ステージ)」

- ① 研究室に来る前 2 週間の体温測定データを取っていること。
- ② 安静時の体温が平熱(体調が良く安静時の体温を 1 週間以上測定し算出しておくこと)より 1°C 以上高い場合は、研究室に来てはいけない。
- ③ 安静時の体温が 37.5°C 以上の場合も研究室に来てはいけない。
- ④ 大学に入構後はマスクを常に正しく着用すること。
- ⑤ 研究室の各部屋に入る前に、廊下に設置の消毒液で手を消毒すること。
- ⑥ 3 密の回避を徹底すること。
- ⑦ 部屋を利用するときは、部屋のドアを開けっぱなしにして、適宜、窓も開けて換気を取りながら利用する。
- ⑧ 研究室で必要な実験等の作業が終わり次第、自宅に帰ること。自宅で出来ることは自宅で行う。
- ⑨ 実験装置を使用後は、装置の消毒を行う(エタノールによる拭き掃除)。
- ⑩ 2 号館の東側入口から出入りし、上下階の移動は基本的に階段利用。

研究室の各部屋の利用に当たっては、3 密を回避するためのルールとして、床面積 **23 m²あたり最大 2 名**という大学で決めた基準がある。その基準で研究室の部屋の利用可能人数を算出すると以下ようになる。この最大人数を超えないように気を付けて利用する必要がある。

棟名称	階数	施設管理番号	室番号	室名称	室面積	室最大人数	装置類(全て書いていない)	備考	
工学部2号館	1	134	134	試料作製室1	47	4	4	アーク溶融、バーナー、引張試験、圧縮機、デンクータ	平岡研究室と共同利用の部屋であるため、利用に当たっては3密を避けるための事前調整必要
工学部2号館	1	147	147	実験室(1)	24	2	2	SEM(EDS)	
工学部2号館	1	149	149	実験室(2)	24	2	2	蛍光顕微鏡、高周波スパッタ、	
工学部2号館	1	150	150	実験室(3)	24	2	2	300kVTEM	
工学部2号館	2	237-a	237	実験室(4)	19	1	2	薬品、ドラフト、電解研磨、腐食測定	暗室に2人で入らない。
工学部2号館	2	237-b	237	暗室	5	0		現像	
工学部2号館	2	239	237	実験室(4)	24	2	2	100kVTEM	
工学部2号館	2	243	243	実験室(5)	51	4	4	炉、研磨機	
工学部2号館	2	244	244	実験室(6)	48	4	4	光顕	
工学部2号館	2	247	247	学生室	46	4	4		隣もしくは背後の席同士で座らないようにしてphysical distancing を取る
工学部2号館	2	248	248	岡野居室	22	1	2		
工学部2号館	2	250	250	小林居室	24	2	2		

学生の居室は 247 号室であり、**最大 4 人まで入室できる**。ここで、博士後期課程の学生は博士号取得に向けて実験を優先的に研究室で行うことが許可される(愛媛大学理工学系での合意事項)ので、Anshar 氏は毎日実験することができるように、卒論(B4)・修論(M1, M2)学生とは別の部屋に席を置いておく方が良くと考え、**Anshar 氏の席は 244 号室のミーティングテーブルエリアに置く**。

247 号室の机は 4 ブロックに分かれているので、それぞれのブロックに一人ずつ座るような形で利用する。本来、同じ研究グループの学生さんが固まって座ってもらう方が研究の議論がし易くて良いと考えているが、当面の間は離れて座る形をとる。

週に最低 1 日は各人が研究室に来て実験ができる体制を構築することを考え、次のようにする。当面の間、教員がいるときに実験は行う(最初は、引越し後の研究室の立ちあげ作業、つまり、装置が使えるように組み立てるところからです)こととします。したがって、1 週間を月～金の 5 日と考え、**1 日の研究室利用可能時間は、当面の間 8:00～17:00 まで**とする。熱処理などでやむを得ず 17:00 以降となる場合は、個別に教員(教員はお互い情報共有する)へ相談する。

研究グループを 5 グループに分ける、M1 は授業が多いことを勘案しグループ分けを工夫して、

月曜日(細胞グループ)

岡野(M2)、深田(M2)、鶴見(B4)、藤井(B4)

火曜日(チタングループ A)

佐々木(M2)、重松(B4)、谷口(B4)、古川(B4)

水曜日(細胞、チタン混成グループ)

M1(児玉)、M1(松田)、安部(M1)、俊成(M1)

木曜日(鉄鋼・ステンレスグループ)

前内(M2)、坂田(M1)、猪森(B4)、正岡(B4)

金曜日(チタングループ B)

堀口(M2)、本宮(B4)、小林(B4)

	月	火	水	木	金
1	助教 岡野 M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部	M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部			M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部
2	M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部	M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部		M1 児玉 B4 本宮 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部	
3	M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部	M1 児玉 M1 坂田 M1 安部	助教 岡野	助教 岡野 M1 松田 M1 俊成	助教 岡野 M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 安部
4	M1 松田 M1 児玉 M1 坂田 M1 俊成 M1 安部	研究室ゼミ	助教 岡野 B4 猪森 M1 坂田	助教 岡野 M1 松田	助教 岡野
5			B4 猪森	助教 岡野(コース会議がある時のみ)	

とグループ分けし、各曜日で利用できるメンバーを決める。ただし、部屋利用枠を有効活用するために、各人の割り当て枠を利用しない場合は、他の人が活用できるようにする。その方法は以下の通り。まず、次の週の研究室の利用について、**金曜日に**

次の週の研究予定を立てた後に、各人で部屋利用の予約を入れる。下記の、りざぶ郎「小林研究室 部屋利用予約表」にアクセスして予約を入れる。

りざぶ郎「小林研究室 部屋利用予約表」

<https://www.r326.com/b/main.aspx?g=hCk10fy51dbb4KtCi1>

下記の例のように、それぞれの人が、用事等があって一日すべてを利用しない場合が考えられ、その場合は、他の人が土曜日以降に空いている枠に自分の予約を入れて良いものとする(8:00-17:00 の間で空きがあれば)。注意してほしい点は、部屋の利用予定人数が、上限人数で最初から割り当てているので(金曜日を除く)、終了予定時間になっても作業が終わらないときに、急遽予定より延長すると、次の部屋利用時間枠に予約を入れた人が研究室に入れられない(部屋の最大人数をオーバーするため)事態になります。そのようなことがないように、余裕をもって時間枠を最初に確保すること。

(記入例)

The screenshot shows a web browser window displaying the reservation system. The main content is a calendar for May 2020. On the left, there's a sidebar with navigation links like 'MENU', '新規予約', '印刷', '更新', and '管理画面'. The calendar grid shows reservations for four rooms: 247号室1 (reserved by 岡野 on 8-10), 247号室2 (reserved by 深田 on 10-14), 247号室3 (reserved by 鶴見 on 10-14), and 247号室4 (reserved by 藤井 on 14-16). A red tooltip in the bottom right corner provides instructions: 'スケジュール(予約)を作成するには... 背景に線を引くようにマウスでドラッグして下さい (または指でなぞる)'. The page also includes a search bar, a login password setting link, and various utility links like '別の予約表を新規作成' and 'かんたん操作ガイド'.

当面は、247号室に来た学生さんが実験室を利用する形態をとります。実験室利用の際は、各実験室の上限人数を超えないように気を付けてください。事前にその日の実験室利用について、お互い情報を共有しておくトラブルになりたくいでしょう。

部屋や実験装置の効率利用を目指すならば、各部屋の利用予約表を作って運用する方向に発展させた方が良いと考えています。しかし、それは研究室の実験装置がすべて使えるように研究室を立ち上げ直してから、様子を見て移行していくことにします。まず、最初の月は引越し荷物の整理や実験装置の組み立てを皆で協力してやりましょう。

なお、各自が利用した部屋(学生居室、実験室)について、エクセルファイル「小林研 活動記録表(氏名)」内のタブ(研究継続)申請書・誓約書に記載の事項と異なった場合には、修正をしておくこと。

さらに注意しますが、授業のために大学の講義室等に来たとしても、研究室の部屋利用ができる日でない限り、研究室に来てはいけません。

(3) Web ゼミの継続について

① 研究室の全体ゼミ

毎週火曜日の 14:30～16:00 に Webex(前学期中)を利用して遠隔ゼミを開催。なお、後学期以降の実施日・方法は未定。

② 研究室の研究グループゼミ

毎週各研究グループが定めた時間に zoom グループゼミを行う。なお、後学期以降の実施日・方法は未定。

2020/05/24

文責:小林千悟